

ふるさと 育親コミュニティスクールだより

発行: 育親学園 学校運営協議会事務局(育親学園内) ※今回は個人名を入れさせていただいておりますので紙で配布させていただきます。

コミュニティスクール
広報誌 第1号
令和8年9月9日発

令和6年度より義務教育学校として開校し、今年度で3年目となりました。育親学園では昨年度に引き続き、学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールとして、より一層教育活動が充実するよう地域の皆様と連携・協働を進めております。

西部地域は、豊かな森林や里山、温泉などの自然環境に恵まれています。野菜などの栽培も多種にわたっており、季節ごとにさまざまな食材を楽しむことができ、おいしい米もたくさん育てられています。

育親学園での独自の教科「ふるさと科」も3年目を迎えました。「ふるさと科」とは義務教育学校の特性を活かして1～9年生が教科横断的に学ぶ育親学園独自の教科です。ふるさとを①教材として②大きな教室として③人とのつながりの中で 学ぶ学習です。以下は、「ふるさと科」の目標と9年間の系統性を考えたステージごとの探究の姿です。

<「ふるさと科」の目標>

- ・体験的・探究的な学習に取り組む中で、ふるさとに関心を持ち、ふるさとの将来を見つめる力を育てる。
- ・自ら見いだした課題を主体的・協働的に解決する力を育てる。
- ・自己の生き方を考え、将来を切り拓き、未来を創造する力を育てる。

【1st】「ふるさとに出会い、感じ、気付く探究」

～ふるさとに親しみ、関心をもって関わろうとする子～

【2nd】「問いをもち、調べ、考えを深める探究」

～ふるさとの課題を自分事として考え、解決しようとする子～

【3rd】「ふるさとと未来を結び、提案する探究」

～ふるさととともに未来を創造しようとする子～

学校としては開校当時から学校運営協議会、地域学校協働活動本部会議で『ふるさと科』を中心とした学習部門や児童生徒の安全を考える安全部門など本校の児童生徒のためによりよい方法を考えています。特に『ふるさと科』では、地域学校協働活動本部会議のメンバーである地域コーディネーターさんにたくさん関わっていただいています。西部4町それぞれにおられ、地域にあるさまざまな人材などを紹介いただいています。

本稿では、学校運営協議会や地域学校協働活動の取組内容を紹介し、子どもたちの活動の様子などをお知らせしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【令和8年度役員の紹介】

○学校運営協議会

本梅町自治会長 様
宮前町自治会長 様
東本梅町自治会長 様
畑野町自治会長 様
地域コーディネーター代表 様
育親学園PTA会長 様

○地域コーディネーター

本梅町コーディネーター 様
宮前町コーディネーター 様
東本梅町コーディネーター 様
畑野町コーディネーター 様

(敬称 略)

本年度 どうぞよろしくお願いいたします

<<一学期の主な会議・研修の紹介>>

【第1回学校運営協議会】

5/29(金)に第1回学校運営協議会を開催しました。全学年の授業を参観していただきました。「児童生徒は落ち着いて学習している」「1年生から9年生の発達段階の違った児童生徒の学習の様子が見れてよかった」などの感想をいただきました。

その後の協議会では、学校より、学校教育目標や重点課題について説明をし、児童生徒の様子などをパワーポイントで紹介しました。また、R8年度のPTA活動についてPTA会長から現状をお話いただき、地域学校協働本部活動についても含め、意見交流をしました。

【第1回地域学校協働本部会議】

7/13(月)に第1回地域学校協働本部会議を開催しました。この会議ではR8年度の事業計画について主に話し合いました。今までと同じように児童生徒のために関われることはなにか、これからの未来に向けて持続可能に学習や生活に関われることは何かを中心に話し合いました。



(安全部門)

○4町自治会長さん、西部地区民生委員児童委員の方、安全対策協力員の方、地域の見守り隊の方、駐在所さん(本梅・宮前)、保護者のみなさん等にお世話になり、児童生徒の登下校の見守りをさせていただいたり、あいさつ運動をしていただいたりしています。



(環境部門)

○PTAの方にお世話になって、「親子ふれあい作業(プール掃除)、花植えを児童・生徒と一緒にさせていただいています。



(学習部門[ふるさと科・読み聞かせ等])

○1stのふるさと科として「自然体験」を。また学年では、1年生は「架け橋期カリキュラム」で両子ども園と交流、2・3年生は西部地域のことを学ぶために地域へ、4年生は「環境問題」を中心に様々な西部地域の方にお世話になっています。

○2ndのふるさと科としては「米作り」について各学年の発達段階に応じた課題を設定して取り組んでいます。どの学年もアプローチの仕方は違いますが、「持続可能な西部の農業の在り方」について考えています。

○3rdのふるさと科としてのテーマは「木育」です。8年生は、「竹の可能性を探究する」ということで4つのプロジェクトチーム(竹林管理グループ、竹細工普及グループ、竹箸プロジェクトグループ、竹レクリエーショングループ)に分かれて探究学習をしています。9年生は、「悠久の里山～循環する樹木～」という探究のテーマで和田山の生態系について学んだり、木の地産地消について考え、探究学習を進めたりしています。



【西部フォーラム】

8/5(水)、本梅こども園、森の自然こども園東本梅の園の先生方、本校教職員で育親地域のことを知るという目的と園・義務教育学校の連携を深めるために「西部フォーラム」という研修を毎年夏に行っています。

今年度は、音羽川上流で、トラップにかかっている昆虫について園児・児童と同じ目線でフィールドワークに行きました。その後、仲田丞治先生から「大人の昆虫教室」というテーマでご講義いただきました。

今年度も架け橋期カリキュラムについて交流を深めている最中ではありますが、園の先生と本校教職員とが一緒になって学ぶ機会に教職員自身が主体的・対話的な研修となるよう、自分事として研修に参加し、児童生徒の姿を思い浮かべながら臨みました。

